

# 長野県立大学 アセスメントプラン

## 1. アセスメントプランの目的

本プランは、学生がより確実にディプロマポリシーを達成できるようカリキュラムをマネジメントするために、①本学で定める3つのポリシーが適切であるかどうか、また、②本学の教育課程が3つのポリシーに基づき適切に機能しているかを、多面的、総合的に、点検・評価するための具体的実施方法を定めることを目的とする。

## 2. アセスメント対象、指標、実施方法について

別紙「アセスメントプランの運用方法」のとおり。

## 3. アセスメント結果を活用し改善につなげるための仕組み

- (1) 各組織・委員会は、アセスメントプランの運用計画に基づき、毎年度モニタリングを実施する。
- (2) 実施したモニタリング結果は「分析担当」に集約する。
- (3) 各組織・委員会は提供されたモニタリング結果を参照したうえで、自己点検評価を行い、自己点検委員会へ報告する。
- (4) 自己点検委員会は、各組織・委員会の取組を検証し、自己点検報告書を作成する。
- (5) 内部質保証委員会は、モニタリング結果及び自己点検報告書をもとに改善課題の抽出を行う。
- (6) 内部質保証委員会は、対応をおこなうのに適した各組織・委員会へ対しての改善方針を提示する。
- (7) 提示を受けた各組織・委員会は内部質保証委員会へ改善過程を報告する。

■ アセスメントプランの運用方法

C A P・D C A

No	分類	アセスメント対象	使用データ	対象	分析の切り口	分析担当	実施責任者	報告する会議体	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
									①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④								
1	アドミッションポリシーの適切性評価	選抜機能	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・入学後のGPA,出席率 ・入学生アンケート	全学年	・入学時とその後の状況を比較した上で、試験種別ごとに期待した状態となっているかを確認し、想定と異なる結果となっている場合には対策を検討する。	入試・広報室	入試・広報室	・入試委員会 ・内部質保証委員会 ・各学部・学科教員会議	入学試験情報の分析・評価	実施	今年度情報の収集・分析・改善過程の報告。 次年度に向けた改善計画の立案																																													
		入学時点での英語能力	・プレースメントテスト	1年生								今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																												
3	カリキュラムポリシーの適切性	成績評価の適切性	・単位授与率 ・シラバス ・GPA	全科目	・教員各自がシステムで自動フィードバックされる情報を確認することで実施する。 →授業レベルに具体的な調査すべき仮説が提起されたときのみ個別分析を実施。	システム	科目担当者	・なし ・シラバスチェックについては教務委員会	各科目担当者による確認・分析		自己点検委員会 ※内部質保証委員会が提示する自己点検評価方針に基く																																													
		設計の適切性	・成績分布 ・出席率 ・授業外学習時間		・シラバスについては、各担当教員がシラバスチェックリストを基にチェックするとともに、第三者によるチェックも行う。							内部質保証委員会での報告・改善事項の抽出・改善方針提示																																												
		実行の適切性	・授業評価アンケート									各組織・委員会 学部・学科・研究科・各委員会へ改善方針の共有																																												
		学修成果の適切性										内部質保証委員会 ※必要に応じて再度改善方針提示																																												
4	カリキュラムレベル	成績評価の適切性	・GPA	全学・学部・学科・コースごと全学年	・GPA：学部・学科・コース間において分布の差が大きくても問題にはしないがコースごとの特性把握のために確認は行う。	学務課	学務課長	・内部質保証委員会 ・各学部・学科教員会議	前年度情報の収集・分析・評価		今年度情報の収集・分析・改善過程の報告。 次年度に向けた改善計画の立案																																													
		設計の適切性	・カリキュラムチェックリストの検証 (科目GPA、学生の科目到達目標に対する自己評価結果などと合わせて実施)	3年生、4年生	・チェックリストの分析結果と各科目に設定された到達目標を対比して確認。必要に応じてシラバスの内容を点検する。 ・分析結果を基に、領域別に期待した成果が上がっているか、また、学生の自己評価力は適切になってきているかなどを点検する。 ・期待した成果が上がっていない場合は、学生調査の内容を参照するなど、その他のアプローチを総合して原因を検討する。	学務課	学務課長	・教務委員会 ・内部質保証委員会 ・各学部・学科教員会議	前年度情報の収集・分析・評価	教務委員会での報告	今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																													
5	ディプロマポリシーの適切性	学修成果の適切性	・シラバス ・学生調査 (大学IRコンソーシアム)								今年度情報の収集・分析・改善過程の報告。 次年度に向けた改善計画の立案																																													
		学修成果の適切性	・GPT (通算GP) ・通算GPA	卒業生	・カリキュラムチェックリストで掲げられた各能力とDPの達成状況をGPTや通算GPAから分析し、点検する。	学務課	学務課長	・教務委員会 ・内部質保証委員会 ・各学部・学科教員会議			今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																													
8		DPおよび、学修成果の評価の適切性	・進路先評価	卒業後3年目	・育成しようとしているDPが進路先から見て適切か、また、学内の達成度評価は適切かの点検を行う。	CC	学務課長	内部質保証委員会 ・各学部・学科教員会議	情報の収集・分析・評価		今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																													
9	3つのポリシーの整合性	成果からのアセスメント	・学位授与状況 ・就職率・進学率 ・資格・免許状の取得状況 ・学生調査 (大学IRコンソーシアム)	全学・学部・学科ごと全学年	・高位安定させることを目指す。 ・資格・免許状の取得状況についてはAssessorの資格希望状況を母数として評価を行う。	学務課	学務課長	・各学部・学科教員会議 ・内部質保証委員会	前年度情報の収集・分析・評価		今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																													
10		プロセスからのアセスメント	・休学・退学・除籍率	全学・コースごと全学年	・退学・除籍率：低位安定を目指す。 ・休学：増減があっても特に問題にしないが状況把握する。	学務課	学務課長	・各学部・学科教員会議 ・内部質保証委員会			今年度情報の収集・分析。 次年度に向けた改善計画の実施。																																													

※法人評価、事業報告書作成等で活用